

## センチコガネ

有明森林の駐車場からアプローチ道に入って間もなく道脇に形のよいハナイグチが出ていました。前日から明け方までの雨のお陰で、キノコの収穫が期待できておりましたが、いきなりの出会いでした。作業現場への道脇でもあちらこちらに見つかるのでした。有明森林は針葉樹ではトドマツが多いのですが、カラマツも植えられています。それらが樹齢70年程と思われる伐期を過ぎた大木になっています。ハナイグチはカラマツ林の林床に発生するので、北海道ではラクヨウ(落葉)の通り名の方が一般的です。樹齢が若いカラマツに発生することが多いのですが、今年はやほどの当たり年なのでしょうか、老齢林の有明のカラマツにまで発生しているのです。参加者各位がそれぞれ収穫していましたので、全員がかなりの量を持ち帰ることになりました。



大きく開いたハナイグチの裏に黒くて丸っこいコガネムシがくっついてのに出会いました。形からキノコの旬の期間はすごく短いので、2~3日も経過すると腐れてきます。その腐れキノコを好んで食べる虫の一つがセンチコガネです。久しぶりの出会いでした。デジカメの画像の記録は2017年9月13日11時33分でした。



センチコガネはキノコよりも獣糞を主食としており、人類がまだ屋内トイレを発明する以前から屋外開放トイレに寄ることで雪隠(セッチン)に集まる虫としてセッチンがなまりましてセンチとなりセンチコガネと命名されたという説があります。こじつけがきつとも思いますが、納得できないわけでもありません。大きさは14~20mmでさほどの大きさではありません。出現は5~9月と図鑑「札幌の昆虫」には記載されています。この個体はあまり色気はありませんが、色あざやかな美虫もいるのです。これらの虫の身体が糞まみれになぜ汚れないかについては未だ解明されていない昆虫たちの謎であります。

古代エジプトでスカラベとして神様扱いされているのがこの虫の仲間です。獣糞を切り取り球形に丸めまして後退の姿勢で後脚で押し転がして移動し、好みの場所に埋めこみましてその球に産卵するいわゆる「糞転がし」の生態で世界的に有名であります。

